

(4) 丸亀城歴史エリア



景観の特徴

丸亀城歴史エリアは、丸亀城とシビックゾーンを中心に周辺の武家屋敷であった地区などを含むエリアである。

丸亀平野に突出する亀山に築かれた丸亀城は、丸亀のみならず、飯野山などともに中讃地区の景観のシンボルになっている。



景観資源



景観づくりの課題

- 丸亀城を望む眺望景観を守り育てる必要がある。
- 大手町地区4街区再編整備事業の動きがあり、この動きを契機として、より景観の魅力を高める必要がある。

(5) 周辺市街地エリア



景観の特徴

金毘羅街道など旧街道に沿って往時の面影を感じられる建物・まち並みや街角が所々に見られるが、建替えが進んだことで新たな建物と昔からある古い建物が混在するまち並みとなっている。

集落的な環境を継承するエリアとその後建物の立地が進んだ市街地が混在し、うちわ業など地場産業や近代産業施設、また学校など城下町から近代都市丸亀への発展を支えてきた施設も存在する。



景観資源



景観づくりの課題

- 金毘羅街道など旧街道沿いは、建替わりにより、歴史的な建物やまち並みに調和しない建物が建設される例が見られることから、街道沿いの風情があり、まとまりのある景観を形成していくことが必要である。
- 集落や市街地については、快適な居住環境としての景観形成が必要である。

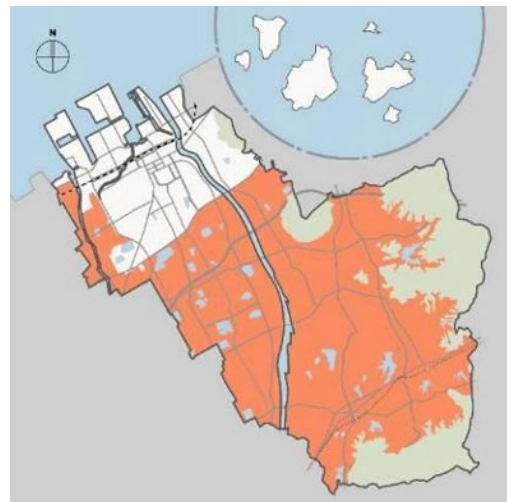
(6) 田園エリア



景観の特徴

条里制による格子状の農地が広がる中に多くのため池が点在し、広やかで明るい景観をもつ。また、広範囲から周囲の山や城への眺望がひらける。

集落と住宅地景観、幹線道路沿いの商業景観が存在し、今後、都市と田園や自然との調和ある景観をつくっていく上で極めて重要なエリアである。



景観資源



景観づくりの課題

- モザイク状に進む宅地開発が景観に無秩序な印象を与えていることから、周辺と調和した景観の形成が必要である。
- ロードサイド型の土地利用が進み、広告物の乱立やまとまりに乏しい景観も見られることから、沿道景観の形成が必要である。
- ため池越しに見る眺望等、独立峰への眺望景観を保全していくことが必要である。

景観資源



景観づくりの課題

- 自然景観を今後も守っていく必要がある。
- 山麓部分の開発等による眺望景観の阻害や緑の喪失を防ぐ必要がある。

(7) 山麓エリア



景観の特徴

飯野山や青ノ山、堤山の独立峰は丸亀のシンボル景観であるとともに、まちの背景となる貴重な緑である。とくに飯野山は讃岐富士と呼ばれる美しく印象的な山容を誇っている。

また、南部の綾歌三山、回天山では、四季折々の豊かな自然景観が形成されている。

